

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒  
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

冬の阿蘇山



高岳・中岳 (杵島岳から)

阿蘇山は捕らえ所もない程大きい。直径約25kmのカルデラの規模は世界一とのことである。

私たちが山登りに出かける阿蘇五岳（根子岳・高岳・中岳・杵島岳・烏帽子岳）などは、その大阿蘇の中のチンマリした中央火口丘のほんの一部に過ぎない。

3月初め、熊本を訪ねた折り、思い立って久しぶりに阿蘇山に足を伸ばし、中岳（1506m）・高岳（1592m）に登った。いつもと違う阿蘇山西口からの登山である。

寒風吹きすさぶ朝8時、運休中のロープウエーに沿った車道をテクテクと登る。30分でロープウエー上駅に着き、火口縁に沿って第三、第二、第一と噴煙を上げる火口を見物して回った。夏場の



第一火口

見物客の賑わいは嘘のように、今は人影一つない。

9時半、上駅駅舎に帰り一休みの後、砂千里を横断して中岳・高岳に向かう。砂千里は、まるで月面



砂千里

にでも迷い込んだかのような荒涼とした、砂また砂の世界である。砂混じりの粉雪が吹きつけ目を開いておれず、たまらずゴーグルをかけた。砂千里を過ぎ、白ペンキの標識に従って岩場を登ると、やがて尾根伝いとなる。火口から吹き上げる横風がすごい。途中、白川中学の遭難碑に詣で、殊勝に手を合わせ礼拝したり

して、11時、ようやく中岳頂上にたどり着いた。

中岳からは、岩のゴロゴロした下り登りの繰り返しの30分程で高岳に着く。高岳山頂は、大鍋といわれる直径500m程



岩ゴロゴロの登路



高岳山頂

の楕円形の旧火口の縁になっており、大鍋のなかに高岳東峰（1564m）が見える。

今日は東峰まで往復して引き返すことにした。高岳東峰山頂に着くと、鷲ヶ峰、虎ヶ峰など、ロッククライマーたちの血を騒がす北尾根の岩稜が落ちこんでのぞめる。のぞき込むと身の毛がよだつような悪相である。東に目を転ざると、根子岳のオドロオドロしい雄姿のかなたに、祖母・傾の連山がはるかに霞んで見えた。

往路を引き返して午後3時、ポツネンと我が愛車のたたずむ阿蘇山西の駐車場帰着。日がな一日、全身砂まみれの登山だった。